

観光×ビジネスデータ： データ駆動型社会の実現に向けて

日時

2022年 5月 21日(土) 10:00~12:30

会場

神奈川大学みなとみらいキャンパス
米田吉盛記念ホール

事前申込制 / オンライン参加可

10:00~11:00

パネルディスカッション

パネリスト

中村 郁博 (東洋大学大学院経済学研究科公民連携専攻 客員教授)
末吉 孝弘 (ザ・キャピトルホテル東急総支配人 (2022年4月現在))
中瀬 幸子 (Avinton ジャパン株式会社 代表取締役社長)

ファシリテータ

高野倉 雅人 (神奈川大学工学部経営工学科 教授)

新型コロナウイルス感染症は、グローバルに社会・経済活動に対して負のインパクトをもたらしました。特に、観光産業に対するインパクトは非常に大きく、横浜市においても2020年の観光消費額が前年と比べて約2700億円減少するなど、全国的な経済的課題となっています。一方、社会の視点で捉えると、テレワークに代表される新しい働き方など、ICTやデータテクノロジーを活用した新しい社会づくりも急速に進んでいます。今しばらくウィズコロナ時代が続くと予想される中、近い将来のアフターコロナを見据えると、各種データを活用した客観的な意思決定にもとづく社会づくりが欠かせません。CPS (Cyber Physical System) のような実世界でのデータ収集から、サイバー空間でのデータの蓄積・分析、その結果を実世界でのサービス創成に活用するデータ駆動型社会の実現に向けた取り組みが必要です。

神奈川大学では、SDGsの達成を目指し、多様化・複雑化する課題に対して“多対多”の取り組みを実現するフィールドの第一弾として「観光プラットフォーム」構築を目標とした産官学民連携プロジェクトを実施しています。そのプロジェクトの一つとして、横浜の喫緊の課題であるコロナ禍で落ち込んだ観光需要の回復にアプローチすることを目標に、顧客ニーズを含むデータテクノロジーを活用した観光の現況分析から、需要の未来予測を行い、観光需要の回復に資するソリューション開発を目指した取り組みを進めています。このパネルディスカッションでは、「観光×ビジネスデータ」をキーワードに、2020年初頭から続くコロナ禍が観光産業へ与えた影響を踏まえて、ビジネスデータの活用と、その社会への貢献について議論します。そして経営工学の視点から、今後、解決すべき社会的・技術的課題を明らかにすることを目的とします。

11:30~12:30

特別講演 データドリブン組織の実現方法

中瀬 幸子 (Avinton ジャパン株式会社 代表取締役社長)
稲川 裕樹 (Avinton ジャパン株式会社 プロジェクトマネージャー)

データドリブンな組織になるための6つのステップ

定義：なぜDXを行うのか？
社内調整：文化の変革を進める
チーム作り：戦略的にパートナーとリソースを得る
始動：小さくても戦略的に
適用：データの民主化を実現する
スケールアップ：データドリブン企業の誕生

Avinton Data Platform

ADP 概要
ADP 使用技術紹介
ADP 導入事例
Machine Vision Showcase 紹介

主催：日本経営工学会、後援：神奈川大学

お申込み方法

右のQRコードからお申し込みいただくか、ご氏名、ご所属および参加方法(会場/オンライン)を明記し、takanokura@kanagawa-u.ac.jp宛てにメールをお送りください。オンライン参加をご希望の方には、追ってZoomミーティングの参加URL等をお知らせします。

申込締切：2022年5月18日

